行われた質疑から
～決算審査特別委員会～

9月議会では、22年度決算の審査を行いました。決算審査の方法は、議長を除く議員全員で構成する決算審査特別委員会（佐藤克夫委員長、小野幸宣副委員長）を設置、9月7日から9月15日まで審査し、その結果、いずれも原案のとおり認定しました。

総合政策部門

質問 自然エネルギーの活用等、地域エネルギー政策についてどのように考えているのか伺います。

答弁 現在実験として進めているバイオマスの可能性が見えてくれば、実用化し普及を図っていきたいと考えています。その他、胆沢ダム等、水資源に余力がありますが、発電所建設等、現段階で具体的なものは考えておりません。

質問 出会い創出事業の成果について伺います。

答弁 昨年5団体で実施、242人の参加で、成約カップルが9組、率にして7・4%という実績です。しかし、その後結婚にまで至ったかは、調査をしておりません。

質問 前沢の小学校統合により、7つの空き校舎が出来ますが、今後の活用策について伺います。

答弁 解体しなければならないもの、教育委員会として利用の意向があるもの等があり、現在教育委員会と情報交換をしております。行政内部で検討後、市民との意見交換をした上で、最終的に決定したいと考えています。

「ほんものの森づくり」昨年の奥州万年の森植樹祭から

質問 奥州万年の森は、自然に逆らわず、その場所に適した植樹や管理として、市民の憩いの場となるよう発想を変えていくべきと考えますが伺います。

答弁 人的な力を掛けず、あるがままに残すという考え方の方が、価値ある森になるのではないかとも思います。広く意見を伺いながら検討をして参ります。

質問 胆沢ダム周辺整備の進捗状況について伺います。

答弁 現在実施計画を業者に委託しています。今後、方針の具体化や国・関係機関への協力要請の体制づくりを急ぎます。

順調に工事が進む胆沢ダム

総務部門

質問 行財政改革大綱実施計画に係わって歳入、歳出の各項目に数字が入るのはいつか伺います。

答弁 相手があり協議しなければ示せないものであり協議が整い次第記載しますが、年内には完了したいと考えております。

質問 行革に対する考え方、姿勢について伺います。

答弁 行政として事業を継続して実施するために行革を進めるもので、当然、市民目線による費用対効果も大事な視点であり、行政のサービスを維持して行くための行革でなければならないと考えます。

質問 行政区長の人数と設置基準が定められているか伺います。

答弁 人数は331名で内訳は水沢区111名、江刺区91名、前沢区50名、胆沢区49名、衣川区30名となっております。行政区長の委嘱は各自治区からの推薦により、市長が委嘱しております。設置の基準については合併前のまま引継いでおります。

質問 納税組合への補助金、奨励金の効果について伺います。

答弁 全体的な収納率で納税組合